

広報かわにし

教育と産業が基幹

新予算の成立にあたって

町長 中村 壮吉

昭和三十五年度の当初予算は、わたくしの行政目標である教育文化施設の充実と、産業の育成発展を基幹として編成させていたが、予算は削減された。すなわち、①予算は削減することのみが健全財政ではない。できるだけ各位の要望におこたえするため努力しよう。②生産施設は常に消費施設に優先し、消耗的な経費が投資的経費をう回つてはならぬ。③合併前の古い借金の整理や災害復旧などのために、新たな発展事業を等閑にしてはならない。という方針で係とよく話し合い、町議会のご審議にあずかったわけでございます。

歳入の半分は

国鉄資産税

合併後、毎年一千万円以上の予算が増加しております。本年度は一般会計一億円、特別会計を合わせると一億四千万円という大きな額になりました。したがってこれをまかなう歳入面の調整もまた、たいへんな仕事でございます。川西町は、まことに風変わりな歳入をもっております。つまり、

借金整理に

年一千万円

歳出で最も苦しんだのは、旧町

発行所	川西町役場	川西町	吉	作	円
発行者	中村	子	幸	風	5
編集人	金	白	1	部	1
印刷所	白	1	部	1	部
印刷定	人口	1	動	き	1
	(4月)	1	日	現	在
	男	7.2	3	2	人
	女	7.4	3	0	人
	計	14.6	6	2	人
	世帯	2.7	5	9	世

自町の税収より倍額も町外からはいって来るといふ、恵まれたところな町でございます。しかし「つまいいものには砂がまじる」のとえ、固定しないものも相当ありまして、決して油断のできない税収でございます。

税の大株主は、何といつても国鉄大明神でございます。年額四千四百万円、全税収の約半分を占めていますが、税法上に定められた減価償却で年々二百万円減っております。また、軽便線の廃止で年四百万円の税金がとれなくなりまして、このためやむを得ず、若干の増税をさせていただきまして、ことをご了承ください。

一千七百五十万円の平衡交付金も、町村合併の特例で昭和三十七年度から廃止されることになりました。このような財源難の中で、一般固定資産税、町民税、国県交付金などを合わせて、一億円の歳入を見積もったわけでございます。



江戸っ子の帰る春

待ちわびた家族に帰ってくる。待ちは急ぐ。おわが家は春のはじめ、村々も残雪のふるとは、山仕事には。活気にみちて。押木秀治撮影

人件費増加 なやみの種

歳出予算のうち、第一位は教育費で二千七百万円にのぼっております。橋小学校の増改築をはじめ、千手小・仙田小のステーツ建設費や、千手・上野両中学校の統合敷地準備金などがございまして、第二位は役場費で、町政の中枢機関であるだけに二千万円を計上いたしました。国・県の委託事業が年々増加いたしますので、本年から国土調査事業と国民年金事業がふえまして、人件費が八割も占めております。今後町の経済面からも悩みの種でございます。産業振興費は第三位で、一千二百六十万円を計上しました。主なものは農業振興費の八百七十万円ほか、前述の災害復旧事業費や国・県の補助事業がございまして、このほかの各款はおおむね前年どおりですが、町費をもつて助成

する団体への出費や、消耗的な経費は極度に圧縮いたしました。

上野小屋体は 中学統合後に

本年度予算の編みかたは、上野小学校の屋体建築をどうするかというところにかかっていました。が、数度にわたる話し合いの結果、千手・上野の両中学が模範的な統

合中学校として生まれてから、引き続きみなさんの喜ばれる屋体の建設にとりかかるといふことになりました。その心得で新しい予算を編成したのでございますが、町議会から慎重な審議をうたがまされて、三月二十八日に可決成立したわけでございます。みなさまのご理解と、ご支援をお願いしてまいります。

予算を凝視しよう

三十五年度の予算がきまった。一般・特別の両会計を合算すると総額一億三千九百二十七千七百六十円、一世帯当たり五万四千八百一十一円というばく大な金である。学校建築などの大事業をかかえ、中村町長もさぞや頭が痛かったことだろう。議会や関係者の努力にも並々ならぬものがあつた。

町づくり

連日、各係が提出する予算案に大ナタをふるった町長は、文字どおりオニと見えることもあつた。消耗品、修繕料、営繕費、賃金、原材料費、食糧費、備品などはとめて減らそうと努力した。サラ紙一枚が四十二銭で何枚、といったこまかい計算までしたし、バケツやソウキンの数まであつた。

三十七年度以降は財政規模が縮小する。そのためには今から予算をキリツキにゆくが、必要な施設はできるだけ充実したい。という方針がとられたわけだ。あれもこれも、総花的に受け入れたのでは收拾がつかなくなつたらうし、川西一家のサイフをにぎるオヤシと

合併前に比較すると、予算はとれるだけとれ、といった考えかたがはなほだいたいあつた。こうして獲得した予算は、たとえ不必要に多額であつてもムリをして使う。これではいくら多くてもキリがないわけだが、こうした人の手腕が高く買われ、それが当然のことだとされてきたのではあるまいか。予算がどのように組まれ、それが町のために正しく使われているか。ということに、わたしたちはもっと目をそいでゆかなければならぬ。わたしたちの選んだ町長が提案し、議員が議決した。あとは当事者がよろしくやってくれるだろう。といった無関心さが、やがては自分の首をシメルことにもつながってくるからである。

町議会報告

新年度予算成立

統合敷地に三百万円

総額一億四千万円に近い昭和三十五年度予算が成立した。学校統合格案で二月中はタナ上げの状態にあつた予算編成の遅れをとりもどすため三月に入つてからは全力をあげて予算に取り組んで来たが、年度末もあつた三月二十六日によつて当初予算編成を招集する運びとなつた。三日間の会期に、一般、特別会計合せて五件の新年度予算案をはじめ、条例の改廃四件、三十四年度の最終追加更正予算四件を含む十九の議案と、選挙一件、請願十五件(うち継続十一件)という盛りだくさんの案件を全部議決して、二十八日に予定どおり会期を閉じた。なお問題の統合関係には「申し合わせ」の線にしたがつて敷地買収費に三百万円、上野小屋体基礎工事費として十

延々三日の予算審議

一般会計は合併以来の最高額

この議会で成立した案件のうち量質ともに最も重要なものは、これまでなく新年度一般会計予算である。その総額は、当初予算としては合併以来最高の九千三百七十九万一千九百四十円という大きな額で、三十四年度に比べて約六百万円の増となっている。この議題については、二十六日に提案されてから二十八日議決に至るまで延々三日間にわたり活発な質疑、討論が行なわれた。一つの議題について、三日間にわたり審議が続けられたことは今回がはじめてであつた。予算の内容については別項解説のとおりであるが、この予算に対して述べられた討論の要旨は次のとおりである。

定数条例の改正を

(田中与三郎氏) ①予算の中で大きな額をしめる、人件費の増加を押えて役場事務の合理的な運用をするため、先進町村にならうべく速かに機構改革を行なうべきである。②職員定数条例の改正が必要である。国県の委託事務が多い今日多少の増加はやむを得ないが、その

たならば、人夫として月に何日間という打ち切り雇用とし、月々更新するという方法によるべきであり、するするべつたり、いつの間にか職員待遇をしなければならぬということになる。将来町の損失を招く。

③教育費について消耗品費・備品費が削減されたけれども、その内容が明らかでない。削減されたところによつて大きな支障をきたす点があるが、各学校の実情がわからぬので、雪どけを待つて総文委員会と教育委員会と実態を調査する必要がある。

④消防施設について予算に計上されている事務当局の設計単価は安くないと思われ。また各地区によつても事情が違つるので、これも実地を見て、その工事費用が妥当なものかどうかをわしく検査する必要がある。

⑤育英資金については、仙田地区でこれを受けていた大学生が全部卒業したので、三十五年度は計上されていない。しかし、育英事業条例もあるので、今後も償還金が円滑にはいるように、これを資金としてこの事業を継続してもらいたい。

⑥本年は五十町歩の開田をする予定があるというが、町でブルトラを買ふことによつて、これらの事業をはじめ、土地改良、道路、除雪等が円滑に行き、町費の軽減ができるのではないかと。購入については半額補助のほか起債もあるというから、これらについても考えてみてはどうか。また、自動車の借り上げ料が五

十万を突破している状況である。運転手の給料を払つても町が自動車を持つたほうがいいのではなからうか。

の学校統合格案の場合敷地についての私の見解は次のとおりである。すなわち、不便を忍んで大きな国策にそい、将来の町作りに貢献しようという事業であるから、敷地買収費を学区に負担させるべきでなく、奨励の意味をもつて全額町費負担として推進すべきである。

⑧郡町村会等を通じて支出される負担金のうち、義務づけられないものも相当多い。これらは一般経常費を削つても支出しなければならぬものではない。健全財政保持のため、極力これらを抑制してほしい。

限度にきた町の力

(平野圭三氏) 本年度予算については、大きな事業をやることに感じられる。将来の大事業の計画に当たっては、今後の財政とらみ合わせて、既設事業の、一般経常費に圧迫を加えないよう考慮したい。

昨年度の実績から見ても、当初予算以後一千万円前後の自然増収が考えられるが、これらの財源は当初予算において圧迫を受けた教育費、産業費等を優先的に緩和するよう使用願いたい。農政の問題については、農業自体のあり方が曲がり角にきているといわれているが、ここで、何らかの形で、長期的に農政に関する大きな計画を打ち立て、それを目的としてあらゆる事業を重点的に

総合的に推進する必要があるんじゃないか。また農業関係のいろいろの指導機関があるが、これらをつながせよう、それぞれの立場から最もスムーズに連絡を保ち、その効果を百パーセントあげるようお考え願いたい。

歳出面に不均衡

(齊藤寿美翁氏) この予算について考えなければならぬことは町の総予算としては九千三百万という膨大な才入であるが、町民が直接町民税または固定資産税として納付するものは千八百万でしかない、ということである。あとの七千五百万円というのは国鉄の固定資産税や国庫の補助金である。そうした関係からか、才出の不均衡が目につき、ある面では放機といつてもいいような点もある。

たとえば、昨年も疑義があるといながら結局五十万の町費を支出することとなつた上野農協再建整備に対して、本年度もやはり五十万が計上されているが、農協の再建は全町民の負担においてするのではなく、組合員自身が努力しなければならぬ問題である。それから千手農協倉庫の補助金、その他種々等についても金が出ていく反面、学校予算、保育所等についてたかたか三万程度のものを削減するという実情である。

もし九千三百万円が全部町民の負担であつたならば、才出の面でも非常に深刻に考へて行かなければならないはずである。財政の面では自分たちがほんとに九千三百万円というものを税として納めた

という中から考へていかなければいけないのではないかと。

なお、昭和三十七年度以降の財政は、相当の減収を見込まれているので、今までのようなやり方ではいけないんじゃないかと思う。これまで年々繰り上げ充用がなされてきたが、この三十五年度の予算においては、翌年度予算から繰り上げ充用をするということなくあくまでも健全財政を守つていきたい。特に仕越し工事等については、いろいろと問題があつたとしても結局追加で認めざるを得ないというのがこれまでの実情であつたが、三十五年度予算についてはその骨格をくすまないで実行に当たつていただきたい。

以上、この予算執行に当たつて理事者に希望する次第である。

速かに機構改革を

(丸山泰太郎氏) この予算案について申しあげたいことは、まず機構改革の問題である。人件費についてこのまま行つたならば財政的に行きつくだらうという町長の答弁があつたが、私も同様に考へる。さればといつて、このまま上げないといふことはできないしまた人並の待遇をするといふことは当然である。しかし、現在の人事機構は、合併当時の変則的なお手盛り人事の犠牲によるものでこのままその都度待遇改善をして行くことは、財政的な破たんを生ずるゆゑであると考えられる。

支所機構の全廃というような問題については、もう少し検討を加えた上でやるべきであるが、これ(三ページ二段につづく)



予算を審議する町議会

(二ページ六段から)

らの機構いっさいを通じて、むだのない、納得のいく人事行政を行なうていた。たといは元村長という有能な士を、いつまでも支所長という閑職につけておくことが果たして適材適所といえるかどうか。その他にもま

また、機構改革の時期については、町長の任期中にはやれないだろう、という答弁があったが、四年間手をつけなかった人事の問題を、ホウハイたる世論にもかかわらず、手腕家の町長が満期まで見送るといふ手はない。予算議会が終わって一段落したならば、速かにこの問題を検討していただきたい。そうすることによって人件費の問題も、上げて惜しくはないと考える。

次に、統合中学校の敷地の問題については、坪当たり単価について町長の見解が示されていないので、賛否を申しあげる段階ではないが、これはいろいろ関係もあるもので、十分検討を加えた上で気持ちよくきめていただきたい。

最後に、上野農協の問題については、再建の見込みがない場合は予算を支出しないということであったが、きのうの答弁の中に金を出してやっても六年目からま

た再建整備というようなことはだめだ。現在の役員陣がいけないのだ、ということがあった。町長は上野農協に対して相当の発言力をもって役員陣の革新をはかるべきで、ただ無為無能に金だけ出すということでは厳にやめていただきたい。

予算審議を横割りに

(高橋信吾氏) 川西町の予算については、合併以来予算審査の方法が縦割りにやっていた。そのために斉藤議員も指摘されたような調和のとれない場面が出てくると思う。特に財政がひびくしてくる。横割りの考え方も加味してはどうか。追加更正等においてはこの点を考慮に入れて、調和のある予算にしたい。

健全な歳入見積もり

(和久井精一氏) この予算案に對して、まずもって賛成の意を表したい。

この予算編成においては、非常に苦心されたが、川西町の財政の将来については長期見通しは非常に暗い。かような財政の状況にあって、年々赤字繰り越しをやっているが、この点において相当消費的経費を押しさえ、苦心のあとが見られる。それがため、いろいろな面に不平等が現われているが、たとえは季節保育所等の小さい施設の経費を押し、一方においては常設

保育園に膨大な経費を出すという不公平な面も、やむを得ないとしても、今後は公平を期していただきたいと思う。

成立した条例

制定ならびに改廃された条例は次のとおりで、いずれも原案とおりに可決された。

川西町財産及び營造物条例

町有財産の取得、管理及び処分ならびに營造物の設置、管理、処分について規定したもので、新たに制定された条例である。

川西町税条例

これまで「川西町税賦課徴収条例」といわれていたものであるが、今度地方税法の改正に伴い、名称とともに全文を改正したものである。しかし内容については、手続的な事項について条文が整理された程度で、税率その他については実質的の変更はない。

△報酬年額 議長四万円、副議長二万八千円、議員二万四千円
△費用弁償 一日四百円
◎川西町危険物取締条例を廃止する条例
この条例に規定した事項は、昨年九月消防法の改正によって具が行なうこととなったので、廃止したものである。

国保・診療所関係

この定例会で成立した三十五年国保ならびに診療所特別会計予算は次のとおりである。

国民健康保険 総額二千三百七十九万九千九百九十九円

これは昨年度橋診療所改築のための繰入金三百三十万が減少したことが主な原因で、その他国庫補助としての調整交付金が百万の増、繰越金の減等があり、才出ではやはり橋診療所への繰出の減が大きく、その他は若干ずつふえている。

千手診療所 前年度より二百

万少ない八百二十六万九千六百四十円という予算である。昨年は医師三名とこれに伴う、収入・支出が見積もられていたが、ことしは医師一名で、収支ともにこれに比例して引き締めた。△橋診療所 これも前年度に比べて四百九万という大幅減の千三百五十七万八千八百八十円がその総額である。これは、いうまでもなく昨年度の本館改築費及びこれに伴う支出四百万余りが減ったため、その他については人件費、医療器具などに若干の増があった程度で

だいたい前年度並の予算である。三十四年度分追加工算は、役場費百二十一万、国民健康保険特別会計への繰り出し金八十萬、消防費十九萬、土木費十六萬、産業経済費二十一萬その他財源は町税の自然増五十五萬、地方交付税百三十四萬、負担金六萬のほか、千手グラウンド買収費八十萬を繰り延べ減とした。

三十四年度分追加

三十四年度分の最終追加更正予算は次のとおり議決された。一般会計の追加は百九十七万五千五百三十四円、累計一億百七十三万六千九百九十円と一般会計単独ではじめて一億の大台を突破した内訳は、役場費百二十一万、国民健康保険特別会計への繰り出し金八十萬、消防費十九萬、土木費十六萬、産業経済費二十一萬その他財源は町税の自然増五十五萬、地方交付税百三十四萬、負担金六萬のほか、千手グラウンド買収費八十萬を繰り延べ減とした。

千手診療所は右八十萬の繰り入

れ金で診療収入の減をうすめて、差し引き増減なしの累計千二百八十五万五千六十円。

橋診療所は、国保会計からの二

百万の繰り入れ金と、建築に伴う国庫補助の増五十三萬及び薬品費の支出減四十三萬をもって改築費の増二百九十六萬に充てたもので累計千五百九十八万四千円となつたわけである。

総額九千四百万円

庶務係長 田口一男

一般会計のあらまし

昭和三十五年町普通会計予算は、一般会計九千三百七十九万一千九百四十円、臨時費会計として橋小学校建築費六百五十万円を加え、合計一億二千九百九十四万四千円という巨額に達した。三十四年度予算は、数次の追加によって総額一億八百七十九万九千九百三十円に達している。これに比較すれば、おおよそ八百五十万円ほど少ないことになる。本年度の歳入は、確実な財源補給の上に立って歳出全般の規模を定めた通年予算であり、当年度において赤字を生ずることのないよう、慎重に検討の上編成がなされた。とくに、建設的経費確保のため消耗的経費の縮減をはかり、法令外の各種負担金についても規制が加えられた。以下、別掲の予算資料に基づいて内容のあらましを述べたい。

歳入

①町税は歳入の七十%を占める町財政の首幹であり、本年度は二百三十四万九千九百九十九円と増収となっている。これは、主として固定資産税と市町村民税の増であるが、固定資産税はそのほとんどが国鉄関係の収入である。

②地方交付税も二百万円の増収が見込まれているが、昭和三十七年度になると激減が予想される。

③財産収入の百五十万円増は、町有地売り払い残金（国鉄からの払い下げ用地のうち、町有を適当と認められた以外の土地は部落の道路等に払い下げる）が組み込まれたのが主因であり、その他は積立金、利息等の収入である。

④分担金、負担金の二百三万九千円は、消防施設、土木工事、および保育園運営に要する地元負担金の収入見込みである。

⑤使用料手数料は、主として戸

子とその他の雑収入の集計である。①町債の六十万円は、産業育成資金として県から借り入れ、需要者に転貸するしくみのものであり、年度内償還の短期起債である。以上を合計して、九千三百七十九万九千九百九十九円と増収が予定された。

歳出

①議会費はわずかの増を示した内容は議員の報酬、費用弁償、旅費等が主であり、そのほかは議会運営に必要とする経費である。

②役員費は主として人件費、歳出中の大きな金額を要しているが、本年度は百四十一万九千九百九十九円と増収した。これは、人件費の自然増、備品費、賞与費などのふくらみで、本年度の新規採用職員六名分の経費も含まれている。

③消防費はわずかに減の予算である。本年度はとくに備品（ホース等）の整備、防火水槽その他の施設工事に重点がおかれた。

④土木費は二十四万九千九百九十九円と減の予算である。本年度はとくに栄橋架設工事の負担金七十五万円、仙田橋かけかえ工事負担金七十五万円があり、道路改良、防災、河川事業等にも見合った配慮がなされている。

⑤教育費は若干の減額を余儀なくされたが、臨時経費として橋小学校の改築工事費、千手グラウンド買収、千手野統合中学建設準備金等の支出も大きく、経費の縮減もまたやむを得なかった措置であらう。なお、みなさんと親しみ深い「広報かわにし」も経費が増額され、内容の充実によって、さらに大きな役割を果たすべく、ことに計上された拠出制国民年金事務に要する諸経費と、千手保育園の費用が主なるものである。季節保育所設置にともなう児童福祉費も八万ほど増額された。このほか、一般社会福祉に要する経費と、高倉地区において継続施行の失業対策事業費等も、前年度相当の金額が計上されている。

⑥保健衛生費は、環境衛生の指導に重点が向けられたことがうかがわれる。約九十五万円の増加は、部落簡易水道施設事業等の補助金である。伝染病、結核、寄生虫予防対策費も若干の増を示し、手堅く組み込まれている。

⑦産業経済費は二百七十三万九千九百九十九円と増の予算である。

科 目	本年度予算額	比率%
1. 町 税	66,262,390	70.6
イ. 市町村民税	(5,482,500)	(5.9)
ロ. 固定資産税	(56,737,590)	(60.5)
ハ. 国鉄関係	(44,131,910)	(47.1)
ニ. 雑収入	(197,420)	(0.2)
ホ. 市町村民税	(2,094,000)	(2.2)
ヘ. 電気料	(1,715,880)	(1.8)
ト. 木材引取	(30,000)	(0.03)
チ. 借入金	(5,000)	(0.005)
2. 地方交付税	17,500,000	18.7
3. 財産収入	1,544,800	1.6
4. 分担金及負担金	2,037,880	2.2
5. 使用料手数料	438,200	0.5
6. 国庫支出金	4,178,700	4.5
7. 県支助金	377,070	0.4
8. 借入金	1,000	0.001
9. 繰越金	200,000	0.2
10. 雑収入	551,900	0.7
11. 町債	600,000	0.6
12. 歳入合計	93,791,940	100.0

科 目	本年度予算額	比率%
1. 議 会 費	1,538,580	1.6
2. 役 員 費	20,789,890	22.2
3. 消 防 費	4,296,280	4.6
4. 土 木 費	6,273,000	6.7
5. 教 育 費	15,121,520	16.1
イ. 教育委員会費	(4,944,770)	(5.3)
ロ. 小学校費	(5,147,370)	(5.5)
ハ. 中学校費	(2,666,420)	(2.8)
ニ. 社会教育公民館費	(1,369,290)	(1.5)
ホ. 定常青年学級費	(973,040)	(1.0)
6. 社会及労働施設費	4,740,060	5.1
イ. 労働所費	(1,837,460)	(2.0)
ロ. 保健衛生費	2,700,350	2.9
7. 産業経済費	12,552,780	13.4
イ. 農業委員会費	(966,480)	(1.1)
ロ. 農業振興費	(8,654,300)	(9.2)
ハ. 商工センター費	(2,932,000)	(3.1)
9. 財 産 費	6,312,620	6.7
10. 統 計 費	337,780	0.3
11. 借 入 金	500,800	0.5
12. 公 債 費	4,857,640	5.2
13. 諸 子 支 出 金	12,253,630	13.1
14. 備 用 金	1,517,000	1.6
15. 歳出合計	93,791,940	100.0
備考 1. 人口14,637人		
2. 世帯数 2,758世帯		

⑧公債費は、そのほとんどが連年の学校建築による長期起債の償還元金である。本年度歳入（町債）に見込まれている産業育成資金の、短期起債元金の六十二万九千九百九十九円も含まれているので、実質的の増は二十七万九千九百九十九円と見込まれている。

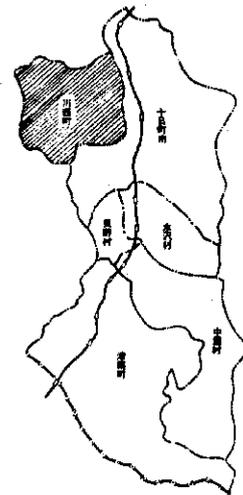
⑨諸支支出金は、今までの科目に計上されないものも費用が計上され、徴税に要する費用、納税報償金等を合わせて百四十万九千九百九十九円と増の予算である。主因として、飛躍的な増である。主因として、建設的経費確保のため、国庫支出金として三百六十万九千九百九十九円、橋小学校建築費として三百六十万九千九百九十九円、高倉分校建築費に二百四十六万九千九百九十九円、交付金等が二百八十九万九千九百九十九円となっている。昨年度に比べて四百八十九万九千九百九十九円減少した内容は、ほかの会計への繰り出し減と、事業施行による不足金が減った結果である。

⑩予備費として百四十八万九千九百九十九円と見込まれているが、これは、年間の手備金として、予算外の支出や臨時的支出に要する経費である。

さて、以上が一般会計のあらましであるが、これと不可分の関係にある橋小学校建築（六教室、その他の付属建物）工事の事業費については、別に総額六百五十万円の予算が決定されている。財源としては、国庫負担金として九十三万八千九百九十九円、起債百九十九万九千九百九十九円、起債百九十九万九千九百九十九円を予定し、今秋完成を期して諸般の準備がすすめられている。

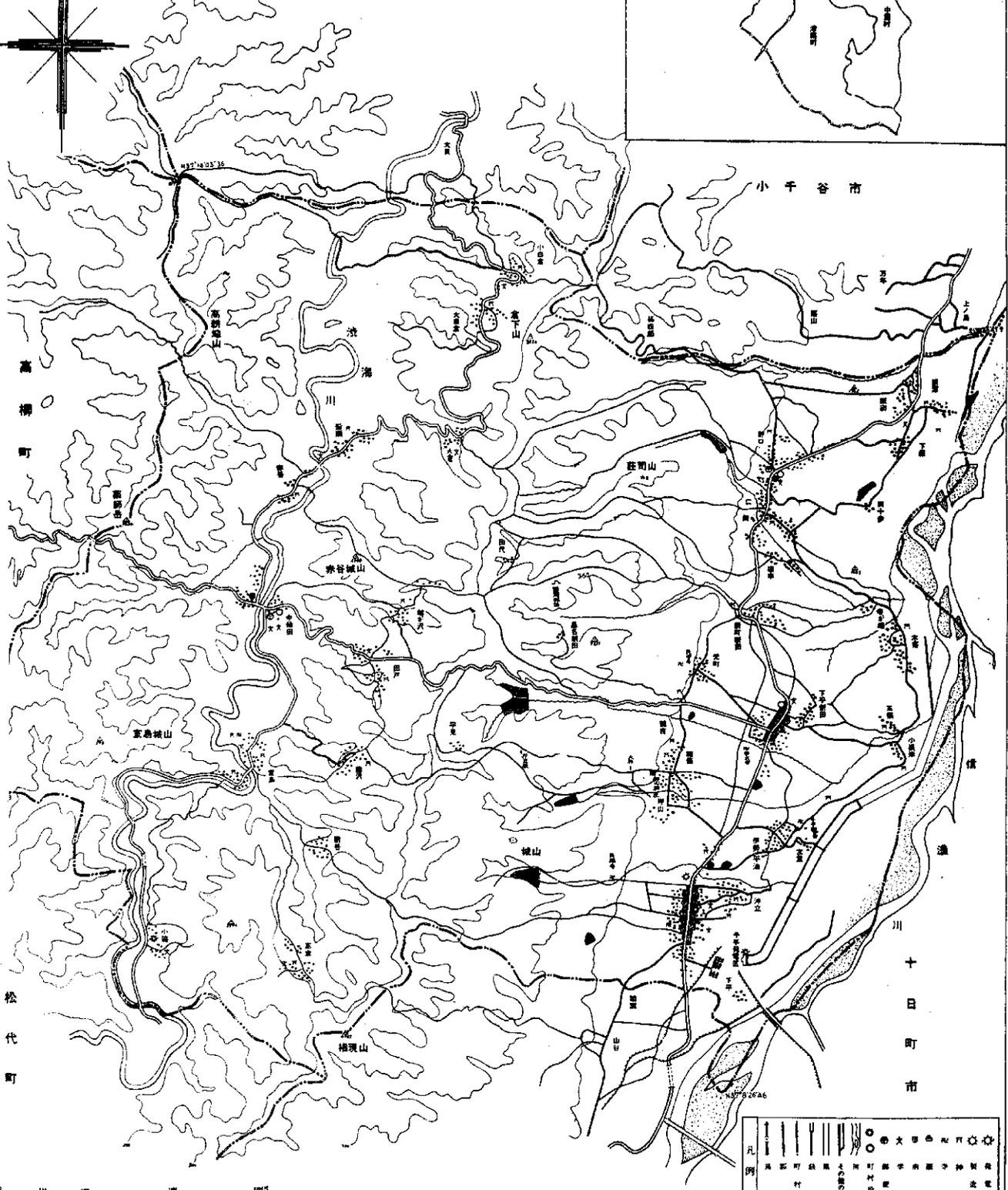
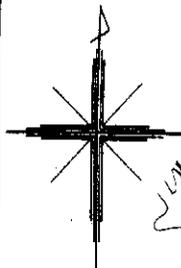
川西町全図

中魚沼郡略図



上小国村

小千谷市



松代町

十日町市

凡例

国道	県道	市道	川	湖	滝	大都市	市	町	村	山
河川	池	沼	田	畑	森林	雪	氷	雪	氷	雪

長谷川さん(千手)の善行 宅地を投げて遊園地に

虎の子の小さい一万円も

……むかし住んでいた宅地を「児童遊園地にしてください」といって投げ出し、さらに施設費として、虎の子の一万円をそっくり部落に寄付したおはあちゃんがいる……

名を長谷川セイ(七二才)さんといひ、ふだんは質素な生活に甘んじている人だといふ。おはあちゃんの願いが実を結ぶ日も近い。

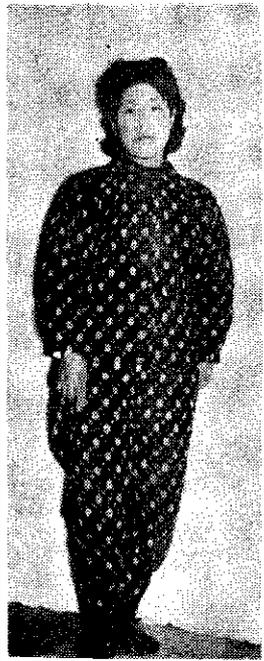


て何事もつましく生活しているのだという。そのおはあちゃんがあのころ住んでいた宅地七百平方メートル(二百十坪)を、「子どもの遊び場に……」といつて金までそえて申し出たのである。

大喜びの高原田

高原田の人たちはみんな大喜びだ。そして、りっぱな遊園地のできる日を待ちわびている。総代の高橋英治さんは「思いもよらなかつただけにありがたいことです。狭い道路に交通が年々はげしくなり、子どもの遊び場がなくて困っていた矢先でした。長谷川さんはこれらの事情をよく知っていられたようです。ご厚意を無にするのとなく、雪消えと同時に村中が総出でとりかかるところにしました。町にもよく相談して、できれば農繁期までに完成したいと思ひます」と語っている。

セイさんは旧中条村に生まれ、二十七才のとき長谷川 朗さん(昭和十一年死亡)にとつた。長谷川家は代々高原田(語源はタカマガハラ)に神宮を勤めてきた古い家柄で、現住所に移つたのは昭和九年のこと、それまではずっと高原田の十二社ワキに住んでいた主人に早く死別したセイさんはよく働き、苦勞してふたりの子どもをりっぱに育てあげ、今では何一つ不自由なく暮らす身になったが、当時の苦しみを深くかみしめ



霜条の女子青年会は、一會員間の親睦融和をはかりながら話し合ひ、みんなが協力して地域の課題を解決してゆこう」という目標で活動している。毎年の事業を前半(四月から九月まで)と後半(十月から三月まで)に分けて実施するが、昨年度は前半に食生活を、後半には作業衣の問題をよりあげて研究したといふ。

霜条青年会が三位に 作業衣全国コンクールで

霜条女子青年会(会長貞子会長ほか十三名)の作った作業衣が、農村女子作業衣、ふだん着全国コンクールで三位に入選、三月十八日に行なわれた表彰式(都市センター・東京都千代田区平河町)で日本四日協会(松下幸之助会長)から賞状と賞金を贈られた。

「と語っている。おはあちゃんは次のように話してくれた。年よりがつまらない出すぎたことをしたようで、みなさんをおさわがせしてすみません。年をとるにつれて、村の衆のお世話になつたことや、何かとご親切にしていたいただいたことを毎晩

のように夢見ています。高原田には子どもの遊び場がないので作ってやりたいと思ひました。わたしはこの年になって、もうこれ以上にはほしいものもありません。そこで、むすこ夫婦からもらった小使いを足して総代さんに頼みました。先祖様の屋敷が、村の衆から喜んでもらえるなら満足です。

ネサたちが授乳のときに見苦しくなく、の経費が安くで簡単にでき、和服たちで洋服式の、④型紙なしにできる便利な作業衣。を作ることに決めた。こうして幾つかの作業衣が作られ、それが高橋光子普及員の目にとまって、「全国コンクールがあるから参加したら……」とすすめられた。そこで、「参加することにしよう」と研究してみよう」といふことになり、高橋さんから参考書を借り、さらに改良を加えたりして、全員が二十日もかかって作りあげたもの。これが県の代表に選ばれ、晴れて全国三位の栄冠をかちとつたわけである。(写真は入選した作業衣)

星名貞子さんの話

入選するなんて、思いもよらなかつただけにうれしいことです。

児童会(千手小)に感謝状

……友情にはげまされて六年間、肢体の不自由を克服して小学校を終えた金山直樹君に努力賞が贈られ、同君に愛の奉仕を続けた友だちに感謝状が贈られた。さる三月二十五日、千手小学校卒業式当日のことである……

直樹君(霜条・金山貞亮氏の四男)は二才のとき、小児マヒにおかされて右足の自由を失つた。にもかかわらずりっぱに卒業できたのは、同級生や霜条・坪山の友だちをはじめ、千手小学校児童会(四年生以上で組織)のあたたかい友情があったからである。ソリや自転車に乗せ、手を引き、オンブしたりして長い六年間をばげましていたわつてきた。こうした環境の中に学んだ直樹君には、不自由児にありがちなイジメタ点が全然見られず、カンバリ屋でよく勉強する明るい子に成長してくれた(担任した宮田先生の話)といふ。

直樹君は努力賞(富永勇校長から)をもらい、児童会(高橋幹雄君ほか三七五名)には、川西身体障害者互助会(高橋喜栄会長)から感謝状が贈られたもの。

ふるさと

近ごろ草魚(ソーギョ)という魚が注目されている。なまゑのように草を食う珍しい魚であるが、それも遠いアフリカやガラバゴスの話ではない。現に郡内中里村にある泉営業魚場で飼育中で、郡漁業組合でも本年度一尾を郡内漁場に放流の計画がある▲この魚は中国大陸の原産で、日本内地では繁殖しないといわれていたところ、二年ほど前に埼玉県水産試験場で人工フ化と増殖に成功してから一躍脚光を浴びることとなった▲この魚は毒草以外のあらゆる雑草をはじめ、サクラやブナの葉でもたべるといふ盛んな食欲で、その成育ぶりはめざましく、七八年もすると長さ一・五メートル、重さ三〇キロに達し、中には四〇キロ以上の怪魚になるものもあるという▲したがってエサ代が非常に安上がりで、一尾十円の稚魚を田んぼや池で飼育すると一年で四キロ近くに成長し、四五百円になるから最も有利な農家の副業となる。おまけに雑草を食うから、一番骨の折れる田の草取りの手間も省けて一石二鳥の「水中牧畜」である▲これでは話がうますぎるが、相当引きついても、曲がり角に来たといわれている米作り一辺倒の農業経営に対する一つのヒントにはなりそう。心配された越冬もコイと同じ方法で百パーセント成功したというし、販路も心配ない。と養魚場では大鼓判を押している。北洋サケ・マス漁の制限を多少でもカバーする意味からも検討されてよいのではないかと思う(M)

本紙に強い住民の支持

広報の性格は貫きたい

本紙は、住民の強い支持によって支えられている。かりに発行を停止するようになつたら、世論が許さないのである。よせられた投書も、くりかえし拝読した編集子の実感である。郷土新聞的な編集方針のぞめ、というご意見もいたく、が、どのようにいれようとも、川西新聞でないかぎり活字にできないものがある。野党的な立場からの批判がそれ、町広報の性格は貫かせてほしい。ますます努力することをお誓ひして第二集をおくる。

学校統合に理解を

学校統合の前進を喜ぶというお説を読み、日ごろの考えを書く気になりました。各位のご参考になればと思つたからであります。わたしもあの当時の役員として村キメの第一線に立たされ、統一反対を叫んだひとりでありました。ムシロバタを立てて村会に押しかけた、政党を動かして大さわぎしたことをいまさら残念に思い、反省の情を新たにする者であります。子どものかわいがりかたには二つの考えがあるかと思われまふ。

つまり、①温室で育てる草花のように、昔ながらの村の学校で教育をさせ、進学や成人の晩に人後に落ちる教育をさせたがよいか。②多少の苦勞をさせても、完備した学校でよりよい教育をさせたがよいか。という二つであります。

先生も教材も不十分な分校に今なお満足している人たち、小学校ならまだしも、中学の分校をまだ捨てがたい宝物として、進学や就職にさしつかえてもなお目ざめぬ人が多きようです。あのころの

わたしたちもが今なおこんな状態では、今後の学校統合もむずかしいのではないのでしょうか。きまよは他人の身、あすはわが身、ということばを、決してあざけり笑つてはできません。

世は菌草のごとくに回つています。子弟の教育と町の将来とを考へて、時代の進運に遅れないようにしてゆきましよう。町民の自覚と、識者の善処を切望してやみません。(仙田 S・K生)

川西小うたの普及を

川西小うたができてから三年、わたしは歌い踊れる目を待つておりました。盆踊りには各地の民踊が盛んに踊られるのに、川西小うたが出てこないのは心外です。郷土の民踊として誇りをもって歌い踊るにふさわしい味をもつて、人の作詩によるからです。ラジオの民踊めぐりに放送されても、決して他におとるものではないでしょう。民踊は郷土の道しるべ。まづもってレコードなどに吹きこんで配布し、わたしたちの民踊として

てみんな歌い踊れるようにしてください。後場の保坂君、小川君あたりの指導をわすらわたく、当局のご配慮を切望しています。(岩瀬・金子湖月)

◎お答え ご意見ありがとうございます。何とかが希望になえるべく、目下計画をすすめておきます。その節はご協力ください。(公民館主事・保坂国夫)

定高生の願い

花見のシーズンとなりました。昨年感じたことを書きます。学生服を着た人が三・四人酔つてフラフラ歩いていました。目撃していた四・五人の女性が、「定校の生徒が酔っぱらっている」と話し合っていました。わたしは残念に思っていました。この酔っぱらいは、すでに学校を終えた成人だったからです。そこで、定高生でもないのにそう決めてしまつて、勝手な女たちだとくみましました。

卒業生のみならず、酒を飲むときは学生服を着ないでください。町のみならず、たとえ学生服を着て酒を飲んだからといって、定高生ときめつけないでください。(夜間高校生・N)

酔いどれれた職員

○月○日夕がたのこと、酔いどれれた人がバスに乗りました。酒くさくてロレツもよくまわらず、全く顔をそむけたくなるほどいやな感じでした。しかも役場の人だったので。宴会がえりだつたのかもしれません。たとえ時間外に自分の金で飲んだのだとしても、公務員であることを自覚していたならば、あんなしゅう態は演じなかつたでしょう。心ない人の軽率な行為で、職員全体が批判されることになるのです。(千手・注意子)

大きな部落で組長をしています。毎月の広報をたのしみにしているのですが、ときどき部数足りません。総代さんに「これじゃ困る」といったら、「余分がない」といわれました。わたしの手に渡るまでにだれかが抜き取るのか、税金だけはまちがいがなく取る役場がくれるものはいかげんかしているのか。とにかく不満の上もありません。気をつけてちょうだい。(橋・権利を主張する男)

入手が遅れる広報

「かわにし」の発行を待ちわびているひとりで、毎月九日に郵送されるときいています。第十号をいまだ入手(十六日現在)してありません。総代さんのところでねむっているのでしょうか。それとも組長さんのところにあるのでしょうか。わたしの部落は六組ありますが、急ぎの回覧板などが遅れることもしばしばです。(上野・大むくれ)

お願いとおわび

かわにし郷(文化財調査報告書)の出版は、印刷のついでに本月下旬ごろになる見込みです。いましばらくお待ちください。

町の掲示板

ラジオ農業学校

一日から農業教育振興事業がはじまった。次の日程で集合研修が行なわれる。会場は農業センター。四月十五日、種子の予備。なわしろ作り。五月六日、水稲元肥の施用。なわしろの手入れ。成人式は五月一日。成人式が五月一日にきまつた。午前十時から千手中学校で行なう。全町の該当者は約三百名、みんなが簡素な服装で参加してほしい。

花村先生サヨナラ

花村ゆき先生が転任された。好評だった「ある女教師の手紙」は第十五号をもって終わらねばならなかった。先生ごきげんよう。

農業機関紙を発行

町の指導技術陣が協力して、総合的な農業機関紙を発行(五月十五日から一カ月おき)する。規格はタブロイド版二ペーシ、編集長は農業委員会書記の高橋重英氏。

落とし主ヤイ

役場の窓口で現金を落とした人がある。二月五日のこと、午前十一時から午後一時までの間、心あたりの方は出納係までどうぞ。

町民税の申告

いま本年度の町民税申告中。まちがいがなく記入して四月二十日までに提出のこと。固定資産税の一期分は月末までに納入されたい。

星名、富井氏を表彰

国保衛生係の星名憲三・保健婦富井ヒサの両氏は、このみちに勤続することと十年。十三日に国保連合会長から表彰される。



下原 仁子
○橋かかるまでの渡舟や春の川
賞屑をもやし屋根替えおわりけり
元 町 北 泉
○残雪につきささりおる枯木かな
小白倉 玉章
○山門の強いそのまま梅咲けり
岩瀬 喜美子
せせらぎのここにはじまる露の
臺 越ヶ沢 辰治
ごうごうと風鳴る山や春浅し
元 町 鉄平
風邪声にして押売りのよくしゃ
べる 小白倉 香坊
雪やけのせし顔並び卒業歌
.....
○縮減あいついで成立した新予算
でしたが、本紙の発行費は八万円
増額され、前年度の不足分もまた
五万円追加していただきました。
◎中村町長はじめ、町議会のみならず、厚くお礼を申し上げます。
◎花村ゆき先生、ご乗取おめでとうございます。一年間にわたって、わたくしたちに深い感銘をあたえてくださったことを感謝いたしております。幾久しくおすこやかに.....
○視界のいたるところ木々が芽をふき、野に山に若草の見える季節です。生きることの喜びをかみしめてみましょう。
くれなゐの二尺のびたる藤樹の芽の、針やはらかに春雨の降る
(子規)